

第74回 明るく幸せな社会を築く《若槻地区住民集会開催》

7月13日(土)10時より若槻コミュニティセンター体育館で、「第74回 明るく幸せな社会を築く《若槻地区住民集会》」を開催しました。5年ぶりに若槻地区住民の皆様を対象にして盛大に実施しました。

第1部、第2部に分け、第1部では「社会を明るくする運動」の事業の趣旨、内容等の説明が行われたあと、学校人権教育の報告として、北部中学校の今田利弘校長より北部中学校での人権教育の発表がありました。

第2部では講演会として信濃毎日新聞社の記者 松沢佳苗さんを講師としてお招きし、「差別と闘うのは誰? ~取材からの自問」という演題で部落差別問題に関して貴重なお話を約1時間にわたりご講演いただきました。

最後に「若槻地区人権尊重アピール」として、「私たちは一人ひとりの人権を尊重し、優しさと笑顔があふれ、いじめや差別のない、真に平等なまちづくりを進めていきます」を宣言し、満場の拍手を持って終了しました。



(人権教育部会)

人権に関する ポスター発表



7月13日(土)に開催した「若槻地区住民集会」で展示されたポスターです。今回は北部中学校の生徒さんの作品です。集会に参加されなかった方も、この機会に人権について考えてみませんか。



北部中学校 1年1組 渋谷 蘭



北部中学校 1年1組 徳永 羽奏

環境問題啓発事業

「生ごみ堆肥化講座」開催しました

今年も7月28日(日)に「地域に生ごみ削減の意識を育てる」を目的とし、区長部・環境部員の関係者に一般参加の住民の皆様も加わり開催されました。最初に、長野市の生ごみ排出の現況について説明があり、生ごみの減量(堆肥化)の基本的な方法が手軽に出来る事を学びました。可燃ごみの半分は生ごみと紙類で有り、ここを減らせば市内のパッカー車も半分になる(市の負担も減る)事も知りました。長野産の発酵基材「ピタピー-5」の特徴と生ごみを発酵し続ける為の取り組みについて「臭いと虫の発生と防止」「完熟堆肥と肥料効果」「コンテナ栽培と露地栽培の見本」など実例の画像を見ながら説明を聞きました。又、実際に市民の方が集まり、広い畑で生ごみ堆肥で野菜の生産をしている「キッズ生ごみ農園」の様子も紹介されました。

また、人間のお腹の中で有効菌が活動することで食物をエネルギーに変えると同様に、土の中でも有効菌が生ごみや糞尿を堆肥に変え、作物や樹木を育てるエネルギーを作り有機野菜などが出来る「食の循環」についても学びました。最後に、それぞれ参加者が、家に戻り実践出来るよう講座で使った「基材ピタピー-5」と専用ダンボールをお土産にお渡ししました。

近頃、環境問題でも大きく報道されるようになり、捨てれば良い(後は市が片付ける)では無く、自分たちで排出量を減そうという動きが出てきている事を...地区として生かしてゆきましょう。

(自然環境部会)



広告